

二次医療圏に1ヶ所の 地域小児科センターが 設置された場合の患者アクセス

北海道大学大学院医学研究科
予防医学講座公衆衛生学分野
江原朗

目的

- 病院小児科の集約化・重点化が叫ばれているが、アクセスに関する検討が十分にされていない
- 各二次医療圏ごとに1ヶ所の地域小児科センターが整備された場合の各市町村からのアクセスについて、全国の広域二次医療圏上位10地域について検討を行った。

方法

- 広域二次医療圏において小児科医が最も多い都市を中心都市として、圏内の各市町村との距離(役所・役場間の最短経路)を計測し、二次医療圏の小児人口のうち、中心都市から50kmおよび100km以内に住む小児人口(平成17年国勢調査による)の割合を計算
- 計測:ゼンリン社のソフトウェア「ゼンリン電子地図帳Z[zi:]Professional5」を使用

計測例(東京駅から羽田空港)



広域二次医療圏

医療圏	都道府県	面積(km ²)
十勝	北海道	10,831
釧路	北海道	5,998
北網	北海道	5,542
遠紋	北海道	5,148
日高	北海道	4,812
後志	北海道	4,305
上川北部	北海道	4,197
飛騨	岐阜	4,180
宗谷	北海道	4,051
留萌	北海道	4,020

50km,100km圏内小児人口の割合

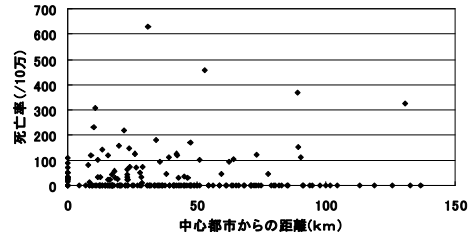
医療圏	50km 圏内	100km(カッコ内は近隣二次医療圏も含む)
十勝	83.3%	100%(100%)
釧路	100.0%	100%(100%)
北網	90.5%	100%(100%)
遠紋	48.8%	100%(100%)
日高	75.4%	97.9%(100%)
後志	67.0%	96.3%(99.2%)
上川北部	97.4%	100%(100%)
飛騨	76.5%	100%(100%)
宗谷	61.9%	83.2%(100%)
留萌	13.2%	88.2%(100%)

15歳未満の死亡原因 (平成17年人口動態調査)

年齢層	1位	2位	3位	全死亡数
0歳	先天奇形、変形及び染色体異常 1025	周産期に特異的な呼吸障害等 414	乳幼児突発死症候群 174	0-4歳で 4102
1-4歳	不慮の事故 236	先天奇形、変形及び染色体異常 184	悪性新生物 100	
5-9歳	不慮の事故 230	悪性新生物 120	先天奇形、変形及び染色体異常 44	655
10-14歳	不慮の事故 180	悪性新生物 108	心疾患 44	590
合計				5347

1-14歳の不慮の事故による死亡数: 616

北海道における中心都市からの距離と小児(15歳未満)の死亡率



平成17年北海道保健福祉年報および平成17年国勢調査をもとに解析

結語

- 広域上位10二次医療圏では、50km以内の地域に在住する15歳未満の年少人口は医療圏全体の75.4%(中央値)に過ぎなかった。
- しかし、圏域の市町村の小児のほぼ100%が、当該地域もしくは隣接地域の地域小児科センターから100km以内に居住していた。
- 全国で最も広域である二次医療圏においても、自動車(50km/h)で2時間以内であれば、地域小児科センターへのアクセスを保障することができる。